



子どもたちの学力や体力・運動能力の状況について

校長 齋藤 一裕

令和7年度全国学力・学習状況調査（第6学年）の結果より

2学期が始まりました。猛烈な暑さはまだまだ続くようですが、健康面や安全面に十分配慮して、子どもたちにとって実りの秋になるよう教育活動を進めていきます。

さて、4月に実施した全国学力・学習状況調査の結果の一部をお知らせします。本調査は毎年、全国の小学6年生と中学3年生を対象に実施されており、教科は国語、算数・数学、理科（理科は3年に1度程度）です。出題範囲は前学年までに学習した内容になりますので、小学校では5年生までに身に付けておかなければならない内容が定着しているかを測る調査といえます。各教科の平均正答率及び平均無回答率は以下のとおりです。

■平均正答率

	国語	算数	理科
常盤台小	77.0%	70.0%	62.0%
東京都（公立）	70.0%	64.0%	60.0%
全国（公立）	66.8%	58.0%	57.1%

■平均無解答率

	国語	算数	理科
常盤台小	0.85%	1.16%	1.16%
東京都（公立）	4.19%	3.86%	3.78%
全国（公立）	3.32%	3.61%	2.83%

平均正答率は、東京都と比べて国語が7ポイント、算数が6ポイント、理科が2ポイント上回りました。

平均無解答率（空白のまま提出した解答欄の割合）は、3教科ともに1%前後でした。無回答率は数値が小さい方が望ましく、本校では、調査を受けたすべての子どもが粘り強く問題に取り組んだといえます。

出題される問題には選択式、短答式、記述式の3つの形式がありますが、本校の子どもたちは記述式の問題を苦手にしていないことが分かっています。これは普段の授業などで「自分の考えを書いて表現する」ことを習慣として身に付けているからだと思います。反面、選択式の問題を取りこぼしてしまうことがあるようです。選択肢の中から解答を1つ選ぶ選択式の問題も、時間をかけて書き込む記述式の問題も配点は同じです。どの問題でも文章や図表などから必要な情報を正確に取り出して考える、見直すということを大切にしたいと考えます。

令和7年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査（全学年）の結果より

5・6月に実施した「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の結果の一部をお知らせします。

東京都平均値と比較して 常盤台小平均値が ○都平均値以上 ▼都平均値未満

	男子								女子							
	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	20mシャトルラン	50m走	立ち幅とび	ソフトボール投げ	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	20mシャトルラン	50m走	立ち幅とび	ソフトボール投げ
1年	○	○	▼	○	○	○	○	▼	▼	○	▼	○	○	○	○	▼
2年	○	○	○	○	▼	○	○	○	○	○	○	○	○	○	▼	▼
3年	○	▼	▼	○	○	○	○	○	○	○	○	○	▼	○	▼	○
4年	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	▼	▼	○
5年	○	○	▼	○	○	○	▼	○	○	▼	▼	○	○	○	▼	○
6年	○	▼	○	○	○	○	▼	○	○	▼	○	▼	○	○	▼	○

・握力（筋力）・上体起こし（筋力・筋持久力）・長座体前屈（柔軟性）・反復横とび（敏しょう性）・20mシャトルラン（全身持久力）・50m走（スピード）
・立ち幅とび（瞬発力）・ソフトボール投げ（巧ち性、瞬発力）

96項目中 都平均以上の項目数
令和4年度 51（53%）
令和5年度 63（66%）
令和6年度 67（71%）
令和7年度 71（75%）

子どもたちの体力の水準や傾向が分かりやすいように、本校の平均値と東京都の平均値を比較しています。

本校の都平均値以上の項目数の割合は、令和4年度の53%から毎年、着実に増加する傾向が見られ、今年度は75%になりました。昨年度、課題に挙げたソフトボール投げの結果にも改善が見られます。

学力も体力・運動能力も一朝一夕の取組で成果を上げられるものではありません。今後も、子どもたちが成長段階に合った楽しい学びや主体的な学びを積み重ねていけるよう、授業研究や環境整備などに努めていきます。